

语言学论丛

20世纪俄罗斯语言学遗产：理论、方法及流派

赵爱国 主编

现代日语二字汉语动词体的研究

刘健 著

第二语言习得研究的新视角：二语学习者概念能力研究

姜孟 著

现代汉语及物性研究

龙日金 彭宣维 著

英语词汇习得策略

李宗宏 著

形成性评估的概念重构

曹荣平 著

构式语法的理论、流派及应用

袁野 著

篇章回指的优选解析——基于语篇结构分析的理论探索

王大方 著

法律语篇的行为规范研究——功能语言学视角

王振华 著

应用语言学论文撰写与数据分析

周雪 康建东 编著

现代日语时间复句研究

刘艳文 著

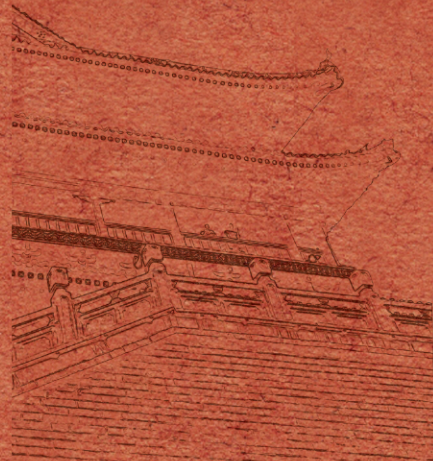
语义复合中的内部特征同位

荣鑫阁 著

关于与现代日语时间表达相关副词的研究

——以表示事态存在副词和事件发生副词为中心

彭玉全 著



現代日本語の時間表現に関わる副詞の研究

——事態存在のありかたを表す副詞と出来事生起のありかたを表す副詞を中心に

本书主要以事态存在副词和事件发生副词为研究对象。首先考察这两类副词的范围，然后研究同属于事态存在副词和事件发生副词的副词群与谓语动词的“体”（aspect, アスペクト形式）的共现倾向、与句末语气（modality, モダリティ）的共现限制，讨论这些副词的共同性和差异性；并考察这两类词在句子中的顺序，由此解析这两类副词与它们的修饰对象即谓语动词的“体”的意义和句末语气之间的关系，并对事态存在副词和事件发生副词进行下位分类。



语言学论丛

关于与现代日语时间表达相关副词的研究

彭玉全 著

北京大学出版社



语言学论丛

关于与现代日语时间表达相关副词的研究

——以表示事态存在副词和事件发生副词为中心

彭玉全 著



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS



彭玉全，四川邻水县人，西南大学外国语学院亚欧语系日语专业教师。1997年6月于四川外语学院获得学士学位，2003年6月于湖南大学获得日语文学硕士学位，2005年10月—2007年3月在东京外国语大学研修，2007年—2011年3月在筑波大学就读博士课程，2011年3月获得筑波大学语言学博士学位。已在国内外发表学术论文十余篇，研究方向为日语语言学与日语教育学。



彭玉全，四川邻水县人，西南大学外国语学院亚欧语系日语专业教师。1997年6月于四川外语学院获得学士学位，2003年6月于湖南大学获得日语文学硕士学位。2005年10月—2007年3月在东京外国语大学研修，2007年—2011年3月在筑波大学就读博士课程，2011年3月获得筑波大学语言学博士学位。已在国内外发表学术论文十余篇，研究方向为日语语言学、日语教育学。

本书获得 2011 年度西南大学科研基金项目资助(项目批准号: SWU11310)

关于与现代日语时间表达 相关副词的研究

——以表示事态存在副词和事件发生副词为中心

彭玉全 著



北京大学出版社
PEKING UNIVERSITY PRESS

图书在版编目(CIP)数据

关于与现代日语时间表达相关副词的研究:以表示事态存在副词和事件发生副词为中心/彭玉全著. —北京:北京大学出版社,2012.10
(语言学论丛)

ISBN 978-7-301-21407-7

I. ①关… II. ①彭… III. ①日语—态(语法)—副词—研究
IV. ①H364.2

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2012)第 240793 号

书 名: 关于与现代日语时间表达相关副词的研究
——以表示事态存在副词和事件发生副词为中心

著作责任者: 彭玉全 著

组稿编辑: 白 渤

责任编辑: 肖凤超

标准书号: ISBN 978-7-301-21407-7/H · 3159

出版发行: 北京大学出版社

地 址: 北京市海淀区成府路 205 号 100871

网 址: <http://www.pup.cn>

电 话: 邮购部 62752015 发行部 62750672 编辑部 62759634
出版部 62754962

电子信箱: xfc203@126.com

印刷者: 三河市欣欣印刷有限公司

经销者: 新华书店

890 毫米×1240 毫米 A5 7.875 印张 249 千字

2012 年 10 月第 1 版 2012 年 10 月第 1 次印刷

定 价: 28.00 元

未经许可,不得以任何方式复制或抄袭本书之部分或全部内容。
版权所有,侵权必究

举报电话: (010)62752024 电子信箱: fd@pup.pku.edu.cn

序 一

日本語研究における品詞論の中心は、名詞や動詞・形容詞、助詞・助動詞に関する研究である。伝統的な日本語の品詞区分は、体言（名詞）と用言（動詞・形容詞）と付属語（助詞・助動詞）を区別するものであり、体・用・相の三分類や体用と詞辞の十字分類を取り入れたところで、動詞と形容詞の区分や助詞と助動詞の区分が加わるに過ぎない。構文論においても、係り結びや格関係、主語・主題の問題にしても、自他やテンス・アスペクトなどの述語に関わる問題にしても、体言と用言、付属語の組み合わせに関わる内容が研究が中心である。

副詞や副詞的修飾語は、副次的な品詞であり、文の成分である。いわゆる学校文法では、名詞と副詞は、活用しない自立語を「主語になる」か「専ら連用修飾語になる」という機能の面から対等に区分したもののように見えるが、実際は、副詞は、接続詞や感動詞などとともに、活用しない自立語で名詞に入れられないものを、西洋流の品詞にならってどうにか区分した、二次的な処理による品詞である。副詞的修飾語も同様に、立場によって主語以外のもの、主語と目的語以外のもの、格成分以外のものなど、幅はあるものの、主要な成分以外の連用的な成分をとりまとめたものなのである。

こうした副次的なカテゴリーである副詞や副詞的修飾語の研究には、主要なカテゴリーに関する研究にはない難しさがある。副詞だけ、副詞的修飾語だけを研究するようなあり方は成立せず、常に、名詞論や動詞論、格関係論など、主要なカテゴリーの研究成果を踏まえて、自らの立ち位置や対象の範囲を確認し調整し続けなければならない。副詞や副詞的修飾語の研究を志す者は、文法のジェネラリストであることが期待されるのである。事実、山田孝雄、渡辺実、北原保雄、仁田義雄など、副詞・副詞的修飾語の研究を推し進めた先人は、いずれも文法のジェネラリストであった。

彭玉全氏も、新進の副詞・副詞的修飾語研究者として、名乗りをあ

げた。

彭氏は、日本語研究者・日本語教師として中国重慶の西南大学で職を奉じていたが、さらに研究を深めるため、日本への留学を志し、東京外国語大学および筑波大学での研鑽を経て、2010年3月に筑波大学より、博士（言語学）の学位を授与された。

彭氏の学位論文は、アスペクトの観点から副詞的修飾語を分類するとともに、特に、頻度や事態の起こり方を表す副詞的修飾語について、コーパス調査による多数の実例をもとに分析を進め、的確な分類と記述を行った。コンピューターによるコーパス調査が容易に出来る現在でも、形態的な統一性も構文的な出現位置も特定しにくい副詞や副詞的修飾語に関しては、目視による確認が必須であること、必ずしも頻度が多くないこともあり、多量のデータを集めることは容易ではない。氏の研究が一つ一つ確認し、用法を特定していった数千に及ぶ実例をもとにしたものであったことに、私を含めて査読者全員が驚嘆した。

2

副詞的修飾語の研究は、述語との関係をもとに理論的な区分を立てていかなければならないが、ともすると、具体性に欠ける概念既定をやたらと重ねることになる。一方、副詞の研究は、個別の語彙的意味にとらわれやすく、類語の対照研究は出来ても、カテゴリーの研究に行き着かないことが多い。大まかすぎる副詞的修飾語の研究になるか、個別的すぎる副詞の研究になるか、どちらかに偏ってしまうのだが、彭氏は、カテゴリーに関わる論と個別の用法論との両立を意識して、一定の成果をあげている。

全体の理論性を保持しつつ、個々の語の語彙的な意味を尊重する。言葉にするのは容易だが実践は難しい。この論文は、文法のジェネラリストへの道に踏み下ろした、最初の一步である。

矢澤 真人
2012年3月

序 二

西南大学日语系彭玉全老师的博士学位论文『現代日本語の時間表現に関する副詞の研究』即将付梓，玉全嘱我为其大作撰写序言，因已有其导师矢泽真人先生的序言赫然卷首，我这个外人再啰嗦难免狗尾续貂之嫌，因此一度婉辞，但玉全言辞恳切，加之有同宗之谊，却之不恭，遂勉为此篇。

与玉全交往不过数载，但他给我留下的印象还是颇深的。首先他性格内向，甚至有些木讷，但绝不浮夸，这是我对他抱有好感的直接原因。最主要的是他在筑波大学留学期间，师从矢泽真人教授，受到了良好的学术训练，打下了扎实的理论基础，治学态度严谨，中规中矩。特别是他的博士论文是研究现代日语中的时间副词的，这与我曾经指导过的博士研究生孙佳音的博士论文题目非常接近（孙现为北京语言大学日语系副教授，其博士论文《现代日语时间副词研究》已于2010年5月由中国社会科学出版社出版），所以格外引起我的关注。

众所周知，时间副词是副词的一个次类，它与典型的副词（情状副词、程度副词）不同，是对谓语所表示的事件（动作、变化等）从时间上加以限定的。在我看来，玉全的博士论文有如下几个特点：第一，注重对时间副词与谓语动词形态的关系的描写，特别注意前者对于后者的限定性；第二，注重对多个时间副词共现时的语序的描写；第三，注重对时间副词与句子类型的关系的描写；第四，注重计量分析，运用语料库统计出数据，搞清不同的时间副词在“量”上的不同特点，定性研究与定量研究相结合，做到了持之有据，因此有较强的说服力。玉全的研究不仅在理论上进行了有益的探索，而且其成果对于日语教学也不乏指导意义。玉全的这本专著与孙佳音的专著各具千秋，相得益彰。

我衷心地希望玉全今后能够继续这方面的研究，对日语的时间副词进行更加全面、更加系统、更加细致的考察，以对我国的日语研究做出更大的贡献。我相信玉全是有能力做到的。是为序。

彭广陆

于京西寓所牛步居

2012年3月24日

目 次

第1章 序論	1
1.1 はじめに	1
1.2 本書の目的と意義	6
1.3 本書の構成	7
第2章 先行研究の概観	9
2.1 事態存在のありかたを表す副詞に関わる先行研究	9
2.2 出来事生起のありかたを表す副詞に関わる先行研究	16
2.3 先行研究の問題点と本書の課題	22
第3章 事態存在のありかたを表す副詞	28
3.1 事態存在のありかたを表す副詞について	28
3.2 「何度も」が表す反復の意味	30
3.3 事態反復と動作連続	48
3.4 頻度の副詞の修飾対象	68
3.5 頻度の副詞と文末表現との共起	88
3.6 事態の時間的存在と超時間的存在	107
3.7 本章のまとめ	119
第4章 出来事生起のありかたを表す副詞	121
4.1 出来事生起のありかたを表す副詞の外延	121
4.2 出来事生起のありかたを表す副詞と述語動詞 のアスペクト形式との共起について	132
4.3 出来事生起のありかたを表す副詞と文末表現との共起	145
4.4 出来事生起のありかたを表す副詞の分類	157
4.5 本章のまとめ	161
第5章 時の状況成分・頻度の副詞・出来事生起 のありかたを表す副詞の共起と語順	162
5.1 時の状況成分と頻度の副詞との共起と語順について	162

5.2	時の状況成分と繰り返し期間の副詞との共起と語順.....
5.3	頻度の副詞と出来事生起のありかたを表す副詞 との語順について.....
5.4	本章のまとめ.....
第6章	副詞と動詞句のアスペクト的意味との関わり.....
6.1	はじめに.....
6.2	副詞的成分による動詞のアスペクト的意味の移行現象.....
6.3	本章のまとめ.....
第7章	終章.....
7.1	各章の概要.....
7.2	副詞とアスペクト、モダリティ、語順.....
7.3	問題点と今後の課題.....
附録	アンケート調査用紙.....
参考文献
用例出典
后记